

代島治彦監督作品、映画「彼は早稲田で死んだ」(仮題)
に収録する15分前後の短編劇

鴻上尚史、作・演出 短編劇パート出演者 オーディション

募集要項

●募集キャスト（予定）

18歳から25歳程度の大学生役
女性1名／男性15名

●オーディション日程

◎1次審査（書類選考）

- ・締切 2022年6月8日（水）
- ・結果発表 2022年6月13日（月）までに
合格者にだけメールで連絡します

◎2次審査（面接・実技）

- ・日時 2022年6月19日
- ・場所 143_NEIGHBOR千駄ヶ谷
渋谷区千駄ヶ谷1丁目7-4
JR千駄ヶ谷駅5分（地図URL→）

◎3次審査

2次審査の合格者に夕方までにメールで連絡し、
同日夕方からおこないます。



●オーディション応募方法

メールでご応募ください。

◎記載事項と写真

下記記載内容をメール本文に明記、もしくは書類
(プロフィール)、写真、を添付してお送りください

1. 名前
2. 名前カナ
3. 生年月日と年齢
4. 住所
5. 電話番号
6. 身長/体重/スリーサイズ
7. 芸歴（演劇体験）/学歴
8. 自己PR（あれば）

写真（全身・上半身＝3ヶ月以内に撮影したもの）

◎メール送付先

adt@kare-wase.net



●オリエンテーション・稽古・本番

◎オリエンテーション

稽古に入る前に池上彰氏による「学生運動に関する授業」を受けていただきます。

- ・日時 2022年7月24日（場所都内を予定）
- ・講師 池上彰

◎稽古・本番

- ・日時 2022年8月8日（月）～14日（日）
 - ・場所 都内（あるいは近郊）
- 期間中に稽古の上、本番撮影まで行います。

●オーディション料・出演料

- ・オーディション料は無料
- ・出演料は応相談

●映画撮影について

オーディション2次・3次審査、池上彰氏の「学生運動に関する授業」、けいこ風景から撮影を行います。
オーディション通過者だけでなく、オーディション2次・3次審査参加者も映画に登場する可能性がありますので、あらかじめご了解ください。

●オーディションについてのお問合せ先

下記、製作委員会まで。

映画「彼は早稲田で死んだ」(仮題)について

2023年公開予定

代島治彦 (映画監督・映画プロデューサー)

50年前、1972年11月8日に早稲田大学文学部キャンパスでひとりの若者が殺された。第一文学部2年生の川口大三郎君。文学部自治会を牛耳り、早大支配を狙う新左翼党派革マル派(革命的共産主義者同盟革命的マルクス主義派)による凄惨なリンチが死因だった。なぜ、川口君は殺されねばならなかったのか。

50年間、私たちは川口君の非業の死に向き合ってきたと思う。中核派(革命的共産主義者同盟全国委員会)と革マル派が「内ゲバ」という名の殺し合いをはじめた時代だった。好奇心旺盛なノンポリ学生だった川口君は革マル派に中核派スパイという誤ったレッテルを貼られ、拉致された。

ベトナム戦争に反対し、貧困や差別を憎んだはずの学生運動はどうして殺し合いにまで行ってしまったのか。映画「彼は早稲田で死んだ」(仮題)は「内ゲバ」紀という血塗られた地層に眠る100人を超える若い死者を発掘する、いや救出するドキュメンタリーである。

代島治彦 (だいしま・はるひこ)

映画監督・映画プロデューサー。1958年、埼玉県生まれ。早稲田大学政経学部卒業。

『三里塚に生きる』(2014年)、『三里塚のイカロス』(2017年/第72回毎日映画コンクール・ドキュメンタリー映画賞受賞)、『きみが死んだあとで』(2021年)と、1960年代後半から70年代の「異議申し立ての時代」をテーマにしたドキュメンタリー映画を連作した。著書に『ミニシアター巡礼』(大月書店)、『きみが死んだあとで』(晶文社)など。

樋田毅著『彼は早稲田で死んだ』(文藝春秋)にインスパイアされて、代島治彦監督はこの映画を構想した。

●参考書籍

彼は早稲田で死んだ

大学構内リンチ殺人事件の永遠

樋田 毅 (著) 発行: 文藝春秋

定価 1,800円+税 ISBN 978-4-16-391445-9

樋田毅 (ひだ・つよし)

ジャーナリスト。1952年生まれ。愛知県出身。早稲田大学文学部卒業。78年、朝日新聞社に入社。朝日新聞襲撃事件取材班キャップを務めた。2017年12月退社。著書に『記者襲撃 赤報隊事件30年目の真実』(岩波書店)、『最後の社主 朝日新聞が秘封した「御影の令嬢」へのレクイエム』(講談社)、『彼は早稲田で死んだ 大学構内リンチ殺人事件の永遠』(文藝春秋)など。



川口大三郎君



鴻上尚史 (作家・演出家)

代島治彦代監督の『三里塚のイカロス』を見た時、「ああ、僕と同じことを知りたいと思っている人がいる」と感じました。『きみが死んだあとで』も同じことを思いました。

この国の人々が現在、政治にさほど関心がなく、国政選挙の投票率が50%を前後している原因の大きなひとつは、かつての「政治の季節」をちゃんと見つめ、検証しきれてないからだと思っています。

当時も今も、人々から政治を遠ざけた最大の要因は「内ゲバ」だと僕は考えます。ベトナムの平和を願い、愛と平等を願った若者がどうして殺し合いをするようになったのか。

三里塚、学生運動と綿密な検証を続けている代島監督に、ぜひ、次は内ゲバを取り上げて欲しいとお願いしました。

代島監督から逆に提案を受けて、映画作りに参加することになりました。

今の若者に当時の若者を演じてもらおうと思います。

この映画が、過去と現在、そして未来を照らす言葉になることを願っています。

鴻上尚史 (こうかみ・しょうじ)

作家・演出家。

1958年、愛媛県生まれ。早稲田大学法学部卒。

在学中に劇団「第三舞台」を旗揚げ。

以降、多数作品を手がける。

94年「スナフキンの手紙」で岸田國士戯曲賞受賞、

2010年「グローブ・ジャングル」で読売文学賞戯曲賞。

演劇以外にも、エッセイスト、ラジオ・パーソナリティ、

テレビの司会、映画監督など幅広く活動。

主な映画監督作品に「ジュリエットゲーム」(’89)、

「青空が一番近い場所」(’94)、

「恋愛戯曲〜私と恋におちてください。〜」(2010) など。

主なドラマ脚本に「戦力外捜査官」(NTV)(2014年)など。

近著に

『「空気を」読んででも従わない〜生き苦しさからラクになる』

(岩波ジュニア新書)、

『ドン・キホーテ走る』(論創社)

『鴻上尚史のほがらか人生相談〜息苦しい「世間」を楽に生きる処方箋』(朝日新聞出版)がある。

映画「彼は早稲田で死んだ」(仮題)

●企画・監督・編集

代島治彦

●撮影

加藤孝信

●短編劇作・演出

鴻上尚史

●企画協力

樋田毅

●製作協力

サードステージ

●製作

映画「彼は早稲田で死んだ」製作委員会

(スコブル工房・ポット出版)

●製作委員会ウェブサイト

<https://kare-wase.net/>